

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



5月15日に宮城県岩沼市寺島地区でおこなわれた復興植樹祭に参加し、マツを植えました。

Contents

- GEN 第22回総会の報告 P 2
- GEN25周年の集い北京で開催 P 2
- GEN 総会シンポジウム要旨 P 4～6
- 会員からのメッセージ P 7

2016.7
170

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

緑の地球ネットワーク 第22回総会の報告

6月11日、大阪市立西区民センター第4会議室にて緑の地球ネットワーク第22回総会が開催されました。

会員443名（団体を含む）のうち、出席数45名、書面またはメールによる決議への参加149名、委任状提出79名、合計273名で総会が成立しました。

【議事】

2015年度事業報告・決算・監査報告とその承認、2016年度事業計画と予算の提案とその承認、定款変更の提案とその承認がおこなわれました。事業計画では新たに河北省張家口市蔚県で緑

化協力を行うことに決めました。

定款の変更について、現行の定款では「緑化協力等の目的の明らかな寄付金は会の運営経費とは区別し、目的のためにのみ使用する」とあります。現在経常会計は赤字が続いており、この傾向が続くと数年のうちに運営不能の状態に陥ります。一方、海外協会の計は約1750万円の次期繰越収支差額がありますが、緑化協力等の用途指定された寄付金を含むため運営経費として使えません。そこで定款に「ただし、会の存続に関わる重大な事情がある場合



は、この限りでない。」を追加し、非常時には運営経費として使用できるようにします。これまでの定款の基本的な精神は維持し、今後も運営経費と協力事業費を区別した使用を基本とします。

【懇親会】

総会終了後、会場を変えて懇親会をおこない、35名が参加しました。

参加者募集

中国の友人のみなさんが 北京で25周年を祝ってくださいます

1992年春、大同で緑化協力をはじめるとき、「20年間は継続します」と目標をかかげたものの、本当にそんなことができるのか、半信半疑でした。それを大幅に上回る25周年を迎えることになったのです。

たくさんの方の協力と、日本と中国の専門家の智恵と経験、地元の幹部の熱心な管理などなど、たくさんの積極的要素を結びつけて、多くのプロジェクトを成功させ、大同の緑化の成功モデルと評価されるように

なりました。そしてその周辺に巨大な国家プロジェクトが押し寄せ、風景は一変しました。最近では、新しく植える場所を探すのに苦労するまでになったのです。

多くの方々と相談し、内部でも討議を重ね、新たな場所での再出発を期することになりました。大同市の地続きの東隣の河北省張家口市蔚県で、これまで培った経験と技術をそのまま活かすことができ、また大同のプロジェクトを見守ることができます。

そのようなとき、中国の友人のみなさんが、25周年記念の集いを北京で開催し、大同での成功を確認し、新たな門出を祝ってくれることになりました。

○日時：2016年8月31日（水）14時～

○会場：中日友好協会内（北京市東城区台基廠大街1号）

○主催：中日友好協会

木を植えることでは最後になる大同へのツアーの帰りに北京で参加することにしています。また、記念活動だけの参加や中国滞在中の方の参加も大歓迎です。緑の地球ネットワーク事務所までご連絡ください。

金算入限度額が認められています。

また個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定NPO法人に寄付すると、相続税の課税対象から除外されます。

GENの場合寄付金となるのは、緑化基金・運営カンパ、おまかせカンパと会費のうち1口を超える部分、賛助会費から12,000円をひいた金額です。

また、大阪府民、大阪市民のかたは地方税の控除も受けることができます。くわしくはGENまでお問い合わせください。

夏季寄付金のお願い

いつもGENを応援していただき、ありがとうございます。河北省張家口市蔚県での協力活動にはずみをつけていきたいと思います。

とはいえ会員の減少傾向や、会計の財政状況が厳しいことに変わりはありません。25周年を迎え、今後もGENの緑化活動を継続していくために、みなさんのご協力をどうぞよろしくお願いします。

【GENへの寄付は税制上の

優遇措置を受けられます】

GENは大阪市に認定された認定NPO法人です（期限は2019年4月8日まで）。個人によるGENへの寄付は、税額控除あるいは所得控除を受けられます。対象となるのは2,000円を超える寄付金で、確定申告が必要です。

企業（法人）からの寄付金は、一般寄付金の損金算入限度額とは別枠の損



報告

被災地で自然の力強さを知る

河合 敦子（大阪府和泉市）

5月14日～15日の日程で東北の海岸林再生プロジェクトのツアーをおこない、15名が参加しました。2日目の午後、A班はマツの実験植樹をおこないました。

東北といえば、やはり5年前の震災と津波の災害の印象が強く、私事ですが災害後訪ねる機会がなく、ぜひいつかは訪ねたいと思っていましたのでGENで企画されたツアーにこれさいわいと申し込んだ次第であります。

初日は小川眞先生のご講演と、シンポジウム「海岸林再生と市民活動」が行われる名取市文化会館に集合でした。名取市文化会館は、仙台空港から仙台空港アクセス鉄道で2駅、広々と整備された道路やイオンモールや住宅街、りっぱな会館の造りが印象的でした。

シンポジウム会場は、ほぼ満席でした。小川先生のご講演はいつもながら興味深く、シンポジウムでは、東北の海岸林を再生しようと、岩手県、宮城県、福島県で多数の市民活動が続けられていることを知り、感銘を受けました。

たいへん盛況だったシンポジウムの後、近くのこじんまりとしたイタリアンレストランに徒歩で移動し、二次会が行われましたが、そこでは、ゆりりん愛護会代表の大橋信彦さんが音頭をとって大変に盛り上げてくださり、さ

らに大盛況の楽しい二次会となりました。

大橋さんの詩吟に始まって、のど自慢大会のようにりましたが、東北の方がたの芸達者には関西勢もちょっとタジタジとなるところ、GENの川島さんが、意外な伏兵？朗々とした美声を披露してくださり、関西からも一矢報いられたという感じだったと思います。

2日目は午前中車で海岸の寺島植栽地に移動し、出迎えてくださったゆりりんの会の人たちとマツの苗の植樹を行いました。植樹は目標どおり500本完了したので、記念撮影後、海岸につくられたいまだ建設中の堤防に一同登って、東北の海を観覧しました。堤防の上からはあの津波でも一部残った松林が観られ、かつてはこの松林が延々と続いていたと聞くと、いろいろと感慨深いものがありました。

午後は私はB班の被災地見学に参加しました。途中で新名物というのりうどんを食べ（黒くて一見そばのようですが、のどごしがうどんよりもツルツルしてしままでない新食感でした）

報告

多田銀山に 行ってきました

6月18日、GEN自然と親しむ会初夏の多田銀山ハイキングをおこない、9名が参加しました。

梅雨の時期でしたが、参加者のみなさんの日頃のよいおこないのたまものか、晴天に恵まれ、日差しがまぶしすぎるほどでした。

多田銀山は今でこそ濃い緑に覆われていますが、「悠久の館」のボランティアガイドのかたの説明によると、中世には鉱山として栄えたところで代官所が置かれ、銀銅採掘の一大拠点だったそうです。

鉱脈が地表に現れて植物の育たない大露頭や青木間歩（鉱山の坑道のこと）など、かつて鉱山として掘り起こして

いたようすがうかがえる箇所が点在しています。青木間歩のなかはひんやりと涼しくて別世界でした。

そのほかクロモジのいい匂いを嗅いだり、ひっそりとさりげなく咲いているササユリを眺めたりしながらハイキングを楽しみました。

帰りは紫合からバスに乗り、川西能勢口へ戻りました。ところで紫合という地名、何と読むかご存じでしょうか。「ゆうだ」と読みます。

地元の人以外はまずすんなり読めない地名ですね。（河本）



ひっそり咲いていたササユリ



車で東松島の小野駅前仮設住宅集会所、通称「おのくんハウス」を訪問しました。おのくんハウスの名前の由来は、仮設住宅に住む人たちがおのくんというおサル^{ゆりあげ}のぬいぐるみを作って、復興活動をされていることからつけられた名称だそうです。たくさんのおのくんと絵本などを拝見しながら、被災体験について体験者ならではの具体的なことまで質問に答えてくださいました。

その後名取市に戻り、閑上にある日和山に行きました。海岸にある小高い（6.3m）築山ですが、地元では津波の時はここに逃げなさい、という言い伝えがあったそうです。しかし、5年前の大津波では頂上よりも上に水が来たということで、てっぺんにある松の木は生き残りしましたが、同じところにあった桜の木は枯れてしまったと、同行の桜井先生にお伺いしました。大津波の大きさとマツの強さ、総じて自然の強大さと言いましようか、が、強く印象的でした。

帰りの仙台空港でのエピソードですが、空港のお土産屋さんで買い物をしたとき、店員のお姉さんが、私の紙袋からはみだしているおのくんを見て、「おのくんハウスに行ったら見たんですか？」と、話しかけられました。「有名なんですか」と聞きますと、「有名ですよ、私も持っています」ということで、おのくんが人気者で仙台の人たち大勢に応援されていることが分かったように思います。

このように、GEN東北ツアーは私にとってもたいへん印象深い、有意義なツアーでした。

GEN 総会 シンポジウム GEN のこれまでの 25 年と今後

総会に先立って行なわれたシンポジウムには 49 名が参加しました。前中久行代表、高見邦雄副代表、東川貴子事務局長の 3 名のパネリストがそれぞれに語り、参加者とともに振り返り、今後の展望についても語りました。(文責＝編集部)

前中久行 (GEN 代表)

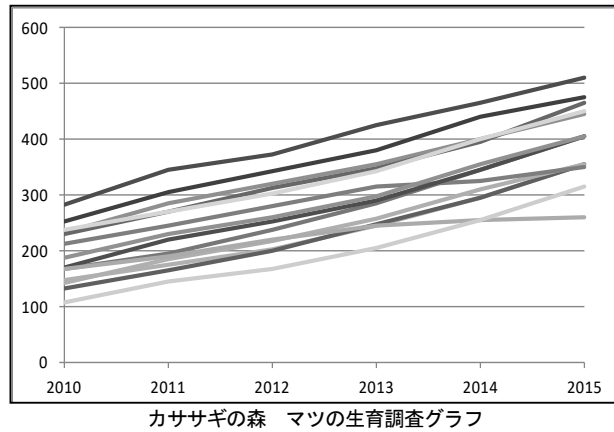
●これまでの GEN の緑化活動

私は 1979 年に初めて大同を訪問し、中国の乾燥地には意外にも多様な植物が日本とは違ったかたちでたくさんあることに興味を持ちました。その後高見さんに誘われて 1994 年に GEN の緑化の関係で行って以来のお付き合いです。

大同は風砂の吹き出し口で環境上重要な場所で、GEN はここで 25 年緑化活動を続けてきました。

村の緑化をお手伝いする地球環境林で代表的なのが采涼山プロジェクトですが、1999 年の起工式当時、周辺は荒れ地で何もありませんでした。ここへマツを植えるわけですが、従来からその地方にあった在来の技術、畝と土手をつくり、その日陰斜面側に植えるやり方と、マツの育苗に菌根菌を使う新しい技術を組み合わせて、現在は非常に緑が濃くなっています。

カササギの森は 2005 年はまだ谷底を除いてほとんど植物がありませんでしたが、2015 年はマツ類がだいぶ大きくなっています。川向こうの山肌も緑が目立つようになっています。私はここ



の景色が広々としてよく見えるのが好きなので、木が大きくなって目隠しにならないといいなーと内心思っています。

カササギの森のマツの成長がどうなっているのか、1本1本の1年間の成長を測定してみました。マツは1年一節ずつ伸びていますので、節の間隔を測れば過去の成長がわかります。最初は1mに満たなかったものが順調に育ち、2015年の最新データでも同じ勢いで伸びていますので、このマツ林はこれからも順調に育つことがわかります。

高見邦雄 (GEN 副代表)

●わかりあえることはできる

私は漫談調で。橋本紘二さんというカメラマンが1995年から2000年まで大同に通って撮影していました。彼が好きなのが天鎮県で、写真集の3分の2はこの県の写真です。

あるとき橋本さんがカメラを何台かぶら下げて町のなかへ出て行ったら、おじいさんに呼びとめられ、指をつきつけて罵られた。橋本さんは中国語が話せなくて何を言われているかわかんないのですが、戦争中のことだろうと見当はついた。取り巻く人が増えて、50人以上にもなった。お



じいちゃんの勢いはさらに上がり、つられて周囲の人が興奮していく。だれかが「やっちゃえ」とマッチをすれば、一気にボツでしょうから、本当に怖かったそうです。

その場に大同の旅行社のガイドが通りかかったので通訳してもらったところ、こういうことだった。「自分が5歳のとき親

兄弟みんな日本軍に殺されて、自分は父親の死体の下で生き延びた。たった5歳でひとりになった人間が一体どういうふうに生きてきたか想像できるか」。橋本さんは「それはどうも申し訳ない」と素直に謝ったんだけど、通訳がおじいさんに「日本から緑化の協力に来ている人がいるのは知っているか？この人はそのなかの一人なんだ」と言ったら、おじいさんは「それは悪いことをした」といって、カメラマンジャケットのポケットに自分が売り物にしているヒマワリなんかの種をぎゅうぎゅうに詰め込んで釈放してくれたのです。

橋本さんは天鎮にいくとおじいちゃんまだ元気にしてるかなって必ず探しに行くし、おじいちゃんは日本人が来ていると聞くと橋本さんがいないか探しに来る。

これには続きがありまして、橋本さんが写真集を山形の親父さんに見せたら、ヤオトンの写真なんか見ながら「昔とちょっと変わらないなあ」と言ったそう。父親が中国にいたのは知っていたけど山西省だったことは知らなくて、「あるとき父親の代わりに謝ったんだなあ」と言ってました。

大同で万人坑に行くときみんな沈鬱な顔をしているので、いつもこの話をし、わかってあうことはできるんだよ、緑化はそのためにいい役割を果たしている、という話をしたのです。日本人に対する初期の対応と、いまのように変わってきた、象徴的な出来ごとだったと思います。

東川貴子 (GEN 事務局長)

● GEN のツアーを振り返って

私はツアーに関して。振り返って一番参加者が多かったのが2000年春で44人。2003年はSARSの影響で少人数の有志で行きました。2008年は北京オリンピック、2009年は新型インフルエンザで夏が実施できませんでしたが、



それ以外はだいたい春夏に実施しています。最近は今年と2014年の春に人数が満たないで実施できませんでしたが、参加者が

減った減ったと言っているわりに、最初の頃のほうが人集めに苦労していました。

ホームステイをしていたころは参加者が30人前後いましたが、最近はそこ



まで集まるのはちょっと難しい。参加者の平均年齢は初期は30歳代、40歳代で、1998年夏は28歳という若さでしたが、2006年あたりから安定して50歳代以上になり、最近は60歳前後に落ち着いています。

協力団体のツアーの派遣は回数の多いところでイオンリテールワークーズユニオン20回と、サントリー労働組合の18回、終了したところでは東北電力総連は東日本大震災の次の年までがらばって派遣していただきました。自治労大阪府本部からは大阪府RR厚生会に引き継がれています。OFSは多数客を相手の仕事ですので、感染症の流行地域は避けなければならないため、SARS流行の年に中止になりました。たくさんさんの団体からご協力をいただいて本当に感謝しています。

1994年、龍山の山頂付近に行ったとき、分乗した軍用4輪駆動車がエンストして怖い思いをしました。初期のこ

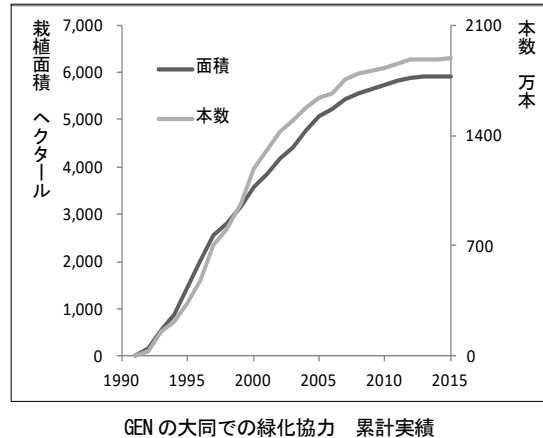


ろは幹線道路でもでこぼこの泥んこ道が多く、バスを降りて歩いてはまた乗ったり、後ろから押したりといったことがありました。

農家にホームステイした時期もあります。夕暮れ時の農村を体験できたのはすごくよかったと思います。ツアーの最大の役割は人と人との交流です。木を植えることももちろんですが、わざわざ日本から人が行って一緒に仕事をして、一緒に遊んで、というのが良きなので、こういうおつき合いを大切に続けたいと思います。

前中：いままで GEN が植えてきた樹木の本数と面積をグラフにしました。現時点で約1900万本、面積は約6000haで、大同市の面積の0.5%に相当します。

この時間経過を見ると、当初はごくわずかでしたが、だんだん増加し、そして急増する時期があり、最近は増加がぶっている。現在は新しく植える土地を確保するのが難しくなってきたこと、大規模な政府プロジェクトがきて緑化がすすんだこと、僻地の村が移転したり高齢化・過疎化がすすんだこと、日中関係の緊張によって寄付金が集まりにくくなったことなど、総合的なものですが、このカーブを見ると始めは少しだけでも急激に増加してやがて頭打ちになるという一般的な経過と同じではないでしょうか。今後どの



ようにしていくかが大きな問題です。
質問：植えたあと活着して緑化されているのは大体どれくらい？

前中：正確なデータがないのでわかりませんが、現地に行くと、植えられそうな土地があっても、過去に植えた場所で、だから森林だという話になります。きちっとしたデータがあればと思うんですが、なかなかむずかしいのが実情です。

高見：采涼山は230haを植えたんですけど、その地続きにカササギの森があり、540haくらいを植えました。その周囲に国のプロジェクトが1000haを植えたので、どこまでが私たちが植えたものかわからなくなってきつつあります。うまく成長したところほど周囲に大きなプロジェクトがくるのでわからなくなると思います。最初のころはよくもここまで失敗するものだと思っていたんですが、最近は上手に着かせるようになって、70%を切ることはないでしょう。カササギの森とか大同事務所が直接管理しているところはもっと高い。

●これからの協力地

高見：今後についてお話します。大同では新しく植える場所を探すのに苦労していますし、無理に探しても条件が良くなって、難しい問題を抱えこみます。25周年を機に成功を確認し、円満に収束というのもありかなと大同側も考えています。

1991年の暮れに北京で下調べをしたとき、大学を卒業したての万学軍さんが通訳してくれました。いまは共青团中央の国際部長ですが、彼にとっても大同での協力事業が初仕事だったので、愛着を持ってくれています。最近の事情を話したら「喜んで新しいところを紹介します」といつてくれたのが河北省張家口市の蔚県です。

蔚県は広霊県のすぐ東隣りで、黄土高原に属し、面積3300km²、

人口 53 万人の大きな県です。中央部が東西に長い盆地で、壺流河が流れています。下流で桑干河、洋河と合流して永定河と名前を変えます。

最初に候補地として案内されたのは翠屏山のふもとにアブラマツを植えている場所です。県の南部は急峻な山が多く、小五台山、飛狐峪などの景勝地もあります。候補地は村のすぐ近くの平坦地で、残る面積は多くはありません。

2 番目の候補地は、北隣の陽原県との境界付近で、低い山と丘陵が連っており、采涼山、カササギの森あたりと地形・地貌がよく似ています。浸食谷があり、岩盤が露出しているところがあり、石まじりの土地です。1985 年くらいに植えた、アブラマツの林が飛び飛びにできています。林業局が組織した專業の植樹隊が山の中腹にテントをはって泊まりこみで植えていました。こちらにまず取り組みたいと思います。張家口市には 12 の県があり、蔚県を含む 8 つが全国クラスの貧困県です。

蔚県は遼と金の時代、燕雲十六州のひとつの蔚州で、蔚県、広靈県、涿源県からなっており、明代は山西省でした。寺廟などの古建築や城壁が残っており、博物館のようだと言われています。剪紙（切り絵）が全国的に有名で、26,000 人もそれに従事しているそうです。高熱で溶かした鉄をひしゃくですくって壁にぶつけて花火のように楽しむ打樹花も有名です。

景勝地の飛狐峪にはナラやシラカンバなどが生えているので、ちょっと保護すれば南天門自然植物園みたいにできるんじゃないかと思います。

河北省の青年団は対外交流の機会が少なくそうで、その方面への期待が大きいです。私が訪問したときもすごく大事にしてくれました。

質問：どれくらいの面積でどれくらいの年数で完了するのか。また、どういう交流ができるか。

高見：北の県境の山・丘陵の面積が約 1300ha ですので、すぐ尽きることはな

いでしょう。2022 年の北京冬季オリンピックのノルディック競技会場が張家口市で、いろんな計画が 2022 年を目標に進んでいますので、緑化にも力はいれると思います。気象や土壌の状況、植える樹種も大同とほぼ同一ですので、経験、技術がそのまま活かそうです。交流活動に関しては子供や若い人たちの交流とか、青年団のほうが総工会よりはるかに熱心なので、大同と比べて劣ることはないと思います。

質問：若者の割合や、貧困、水土流失など、村の状況は？

高見：今回あまり村は見ませんでした。外観は大同の農村と変わりませんが、全体としては山西省より豊かだと思えますが、水土流失は大同と一緒にです。これが壺流河や桑干河に流れ込むのを止めるのが課題になっていますし、官庁ダムに送る水の確保が大きな課題になっているようです。

更に苗を植えてきました。まだ今後うまく成長してくれるかはわかりませんが、藤原さんの行動力と GEN メンバーの知識で一步踏み出している印象でした。

大同の緑化活動でも感じたことですが、GEN メンバーの知識量、経験の豊かさ、そして年齢を感じさせない体力には今回も感心させられました。若手メンバーとして、せめて体力、食欲では負けないようにしていきたいと思います。関東 brunch の宿舎は個人でも使用できるとのことですので、GEN の活動のみではなく、個人的にもまた遊びに行けたらと思います。

本の紹介

『「中尾佐助照葉樹林文化論」の展開—多角的視座からの位置づけ』山口裕文・金子務・大形徹・大野朋子編著／北海道大学出版会／A5 判・上製 798 頁＋CD1 枚／16,000 円＋税

GEN の前中久行代表が一部（第 15 章造園樹木の「無用の用」）を執筆。

著者割引ご希望の方は、GEN までご連絡ください。著者割で、12,800 円＋税＋送料で購入できます。

GEN 事務所 引越します

GEN の活動を継続するために、身の丈にあった事務所へ移転することになりました。現在の事務所から 120 m ほど西にいったところです。

◆旧住所：大阪市港区市岡 1-4-24 住宅情報ビル 5F

◆新住所：大阪市港区市岡 1-5-24 小来田ビル 303

電話、ファクス、郵便番号は変わりません。

7 月 24 日（日）9 時 30 分から引越し作業をおこないます。当日お手伝いできるかたを募集しています。お手伝いできるかたは GEN 事務所までご連絡ください。

郷の棚田の黄花菜が咲きました

4 月 3 日の自然と親しむ会で泉佐野丘陵緑地の郷の棚田に黄花菜を植付ましたが、7 月上旬、無事花を咲かせました。ユウスゲに似た優しい黄色の花です。

そのほかキビは草丈は低いものの穂がでています。オシロイバナは 7 月中旬、タチアオイは秋に開花が期待できます。ぜひ足を運んでみてください。



GEN 自然と親しむ会 今後の予定

GEN 自然と親しむ会で恒例となりました、秋のキノコ観察会を今年もおこないます。

○秋のキノコ観察会

○日程：10 月 16 日（日）

○場所：八幡市石清水八幡宮周辺

くわしくは次号でお伝えします。



○総会の盛会と GEN の活動の進展を期待します。なお、総会では説明されるのですが、2016 年度予算で人件費が管理費から事業費に移されている理由がわかりませんでした。（J.Y）

（事務局より）以前より大阪市から NPO 法人会計基準にのっとり収支計算書を活動計算書にあらためるようになっていました。このたび、張家口市蔚県で新プロジェクトを始めるのを契機に活動計算書を導入することにしました。活動計算書では、人件費、事務所費などを事業費に按分することができます。今回は人件費を、全体に占める事業費の比率に基づき、事業費と管理費に按分しました。

○大作の総会資料拝見いたしました。いろいろ状況変化大きい中国対応にはご苦労も多々ありでしょうが、今までの努力がこの先きも報われ、実り続けることと信じます。（O.S）

○活動年数が四半世紀というのがとてもすごいことだと思います。そして、緑化協力の対象を見つけるのが難しくなってきたというのは、この会が解決しなかった課題が解決してきていることの証であると思うので、次のステップについて思考をめぐらせる時期にきているのではないかと感じます。（O.A）○25 年、四半世紀にわたる事業の継続に心より敬意を表します。中国も大同も、そして日中関係も大きく変わりましたが、「国境を越えた民衆の協力」と

いう設立当初の理念は不変で、それは今後ますます重要なものとなるはずで。願わくば中心スタッフの変わらぬ健闘と、新たな若い世代のスタッフによる牽引を。（K.H）

○情勢の移り変わりのなか、事業継続の困難さと大切さを感じます。今後とも中国を深く理解し、友好交流に奮闘される貴会を応援していきたいと思います。（M.Y）

○ぜひ GEN の継続・存続を！そしてできたら環境問題のより本質に迫る活動に拡大してゆくことを切に願っております。せっかくのネットワークと組織・スタッフをより活かすような活動にしてゆかないと本当にもったいないですから！！（M.T・M.M）

○日中草の根レベルの友好・友誼を醸成するため、まず足元の仲間との友好関係を密にしましょう。飽きずに会を続けるとなにかが生まれるでしょう。（S.S）

○みなさまご苦労さまです。木を育てるという息の長い仕事を地道にやってこられた結果が今あわられてきました。いつかモンゴリマツの林を歩いてみたいと思います。（U.K）

○緑の地球ネットワークが、大自然に対して真摯に向き合って来られた結果、今日の高い評価につながっているのだと思います。私自身、大同を訪れてからすでに 10 年以上経過しておりますが、これからも活動に関心を持ち続け、この価値観を共有できる若い仲間をさらに増やすことができるよう、私なりに協力させていただきたいと思っています。（M.E）

GEN 関東 brunch 月例会のご案内

ひさびさの関東 brunch 月例会の開催です。ぜひご参加ください。

参加費無料、事前申し込み不要です。GEN 会員以外のかたもご参加いただけます。

●7 月 30 日（土）15 時～16 時 45 分前後『GEN25 年を振り返る』上田信さん（立教大学文学部教授）

●場所：立教大学池袋キャンパスロイドホール（図書館のある建物 5 階）L520 室「人文研究センター」

※月例会終了後、GEN スタディツアーの説明会をおこないます。説明会終了後、懇親会をおこないます。

報告

いろんな魅力が詰まった宇久須合宿

鶴田 惇（GEN 会員）

5 月 6 日～8 日、GEN 関東 brunch の宇久須合宿をおこないました。ケニアからの留学生を含む 10 名が参加しました。

5 月 6～8 日に開催された関東 brunch 西伊豆合宿に参加してきました。初めての西伊豆宇久須でしたが、海をバックに山の新緑が楽しめる噂どおりとても美しいところでした。宇久須 1～3 番頭である上田さん、藤原さん、美谷島さんを含め 10 人が集まりました。

GEN が管理している休耕田へのサトイモ作付け、IVUSA メンバーとのヤーコン作付け、珪石採掘場跡地への植樹、地元のお店「カネジョウ」での海鮮パーベキュー、ドキュメンタリー映画「家族の軌跡—3.11 の記憶から」鑑賞会、IVUSA メンバーも駆け付けた夜の宴会、



藤原さんガイドによる伊豆巡り…。中味がぎゅっと詰まった 2 泊 3 日でした。

ヤーコンは宇久須に広まりつつある南米原産の野菜で、あまり手間がかからずに育つ健康野菜として注目を集めています。IVUSA はこのヤーコンを販売して海外ボランティアプロジェクトの資金にしたいとのことでした。

GEN の休耕田では、マルチ剥がし→畑耕し→サトイモの作付け→マルチ敷きを行いました。ケニアからの留学生である Stephen、大学院生の笹原さん、社会人 1 年目の私、20 代 3 人組はこのマルチ敷きで見事なチームワークを発揮し、皆に「マルチ 3 人組」と功績を称えていただきました。秋の収穫祭が楽しみです。

珪石採掘場跡地は、酸性土壌の問題に加え、シカの食害により植林がうまくいっていない場所です。半年前に植えたアセビ、シキミがシカに食べられずに無事に生育していることを確認し、

情報ひろば
いっしょなかたち

森林と木材！

フォトコンテスト

今年から祝日となる山の日（8月11日）を記念したフォトコンテストをおこないます。

- 作品テーマ：あなたが感動し、伝えたい森林での発見！森林での体験！木材との触れあい！
- 募集部門：①森林でみつけた動植物（昆虫・動物・植物）②森林での体験・活動（里山整備、森林環境教育など）③木材と人との触れあい（木材や木製品・木造建築などと人との触れ合い）
- 募集作品：募集部門に沿ったデジタル組写真（A4判2枚1組か3枚1組）とメッセージ・コメント200字程度
- 募集期間：8月28日まで（消印有効）
- 表彰：近畿中国森林管理局長賞（3作品）木製の賞状と副賞／優秀賞（3作品）木製の賞状と副賞
- 審査員：只木良也氏（京都府立林業大学校長）／久山慶子氏（ワールドソサイエティー事務局長）／北田研索氏（日本写真協会会員・宝塚大学特任教授）／馬場一洋氏（近畿中国森林管理局長）
- 主催・問合せ：林野庁 近畿中国森林管理局 箕面森林ふれあい推進センター（〒530-0042 大阪府北区天

*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

満橋 1-8-75 tel. 050-3160-6745 fax. 06-6881-2055 e-mail: kc_fureai@maff.go.jp URL http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/

北区天神橋 1-9-13 ハイム天神橋 202 tel. 06-6242-8720 Fax. 06-6881-8103 e-mail: office@nature.or.jp URL www.nature.or.jp

第4回
生きている地球の記録
in 大阪

地球環境をテーマとした国際映画祭「2016年グリーンイメー国際環境映像祭」の入賞作品上映会を大阪でおこないます。

- 日時：8月28日（日）10時15分～太陽が落ちた日（スイス・フィンランド）／11時44分～井戸をめぐる物語（ドイツ）／13時～新地町の漁師たち（日本）／14時50分～ロンリーレイク（イラン）／15時47分～魚道ー長良川河口堰運用から20年（日本）
- 場所：大阪歴史博物館（4階講堂）
- 参加費：無料（先着300名）
- 主催：（公財）三菱UFJ環境財団
- 共催：（公社）大阪自然環境保全協会、グリーンイメー国際環境映像祭実行委員会
- 問合せ・申込み：e-mail、Fax、はがきのいずれかで住所、氏名、電話番号を記入して下記まで。（公社）大阪自然環境保全協会「生きている地球の記録」係（〒530-0041 大阪市

編集後記

GEN事務局の河本です。梅雨の晴れ間の青空はもうすっかり夏の色をしています。7月になり、すでに2016年の半分以上が過ぎてしまったことに焦りを感じている今日このごろです。

GEN事務所の近くにある八幡屋公園は桜が有名ですが、世界三大花木のひとつ、ジャカランダもあります。やさしい紫色のきれいな花を咲かせ、花が散ると紫色のじゅうたんのようになり、2度楽しむことができます。わたしはこの花が大好きで毎年楽しみにしていましたが、今年はばたばたとあわたたくしく過ごしているうちにまた見ごろを過ぎてしまいました。

好機逸すべからず、大同で植樹できるのは今年のツアーが最後になります。行こうかどうか迷っているかた、どうかこの機会をお見逃しなく。スタディツアーの申込みは7月20日までです。

